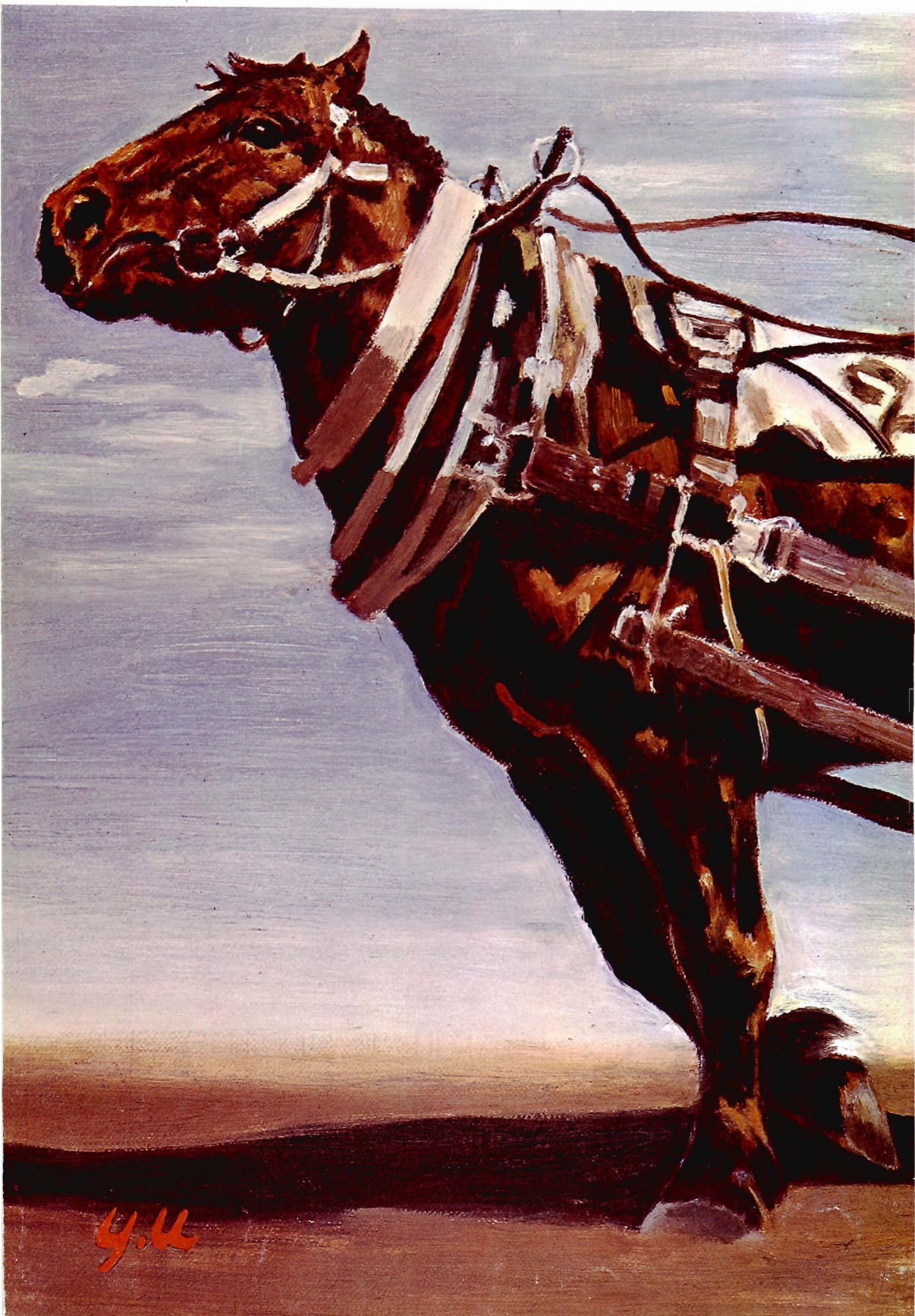


# 北海道軌曳競走

No. 2



北海道市宮競馬協議会会報





働らくばんえい

## 競走馬

嘶きつつ厩うまやを出ずる馬みれば

今日も楽しく働かんかも

涯しなき石狩平野のくろ土を

はこぶ愛馬のたくましく見ゆ

伐り出せる巨木ひく馬 我もまた

汗してすすむ 雪の坂道

泥を噛むわだち重たく ゆきなずむ

馬に力を 貸してはげます

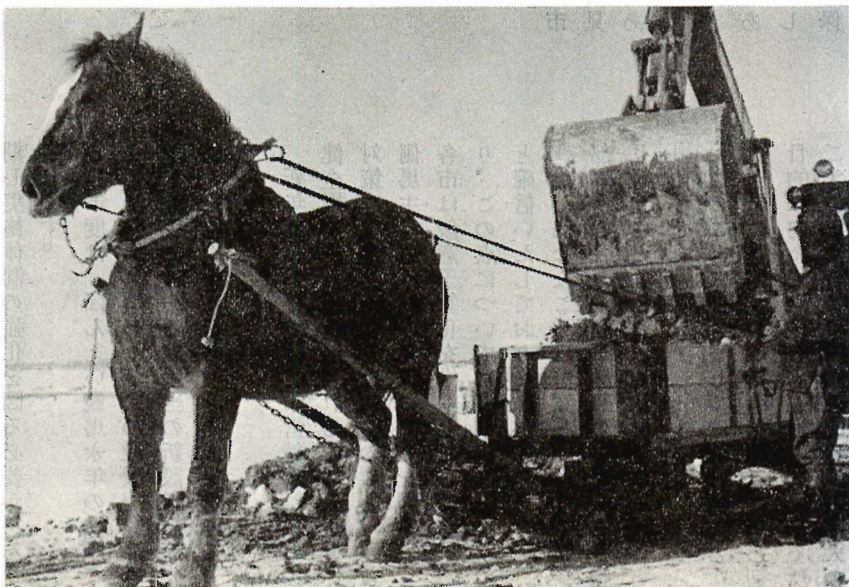
労働の汗ぬぐいてやれば嬉しげに

愛馬は高く 嘶きにけり

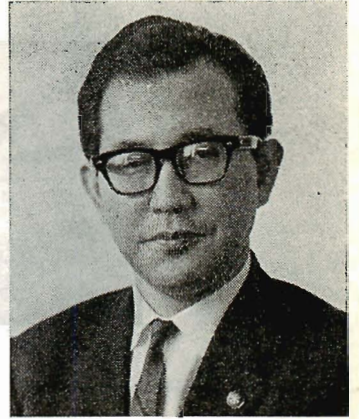
いちにちを客土にはげみ疲れけむ

洗われている馬は動かす

(昭和十六年帝国馬匹協会公募歌集より)



岩見沢市 昭和47年1月 (市村畜産係長提供)



# 会報の発刊に寄せて

北海道市営競馬協議会

会長 五十嵐 広 三

昭和四十七年の会報発刊にあたり、謹んで皆様のご健勝をおよろこび申しあげます。日頃市営競馬の運営につきましては、関係者各位の好意あるご協力に対し深く感謝の意を表する次第であります。

さて、昭和四十六年度の市営競馬を顧りみますると、市営旭川競馬の六月四日を皮切りとして、十月二十五日の最終日まで開催回数において前年より一回増の延べ十二回、七十二日間開催されましたが、その間の勝馬投票券の発売総額は三十三億七千二百五十六万円入場人員においては、十九万六千人であり、伸び率は前年対比、それぞれ、一三六%、一

二五%と増加を示しております。

また、発売額で特に急激な伸びを見せた市は、帯広市一六一%、北見市一五〇%、岩見沢市一四二%といずれも驚異的な伸び率であり全国的にも立派な成績を挙げ、そのうえ不祥事件もなく無事平穩に終ることができましたことは、誠に同慶にたえない次第であります。このような好成绩をあげた理由として主催者の努力は勿論のこと競走の公正確保施設の改善整備等を最重要とした諸施策が広くファン大衆の支持を得たものと確信するところであります。

近年は特に公営競技も大衆娯楽の一環とし

て位置づけられ、ますます愛好されてきていますが、その反面、公営競技の是非存廃に対する世論が論議されている折、各主催者においても、ますます公正競馬の確保には万全を期し実施体制の強化を図る必要があるかと存じます。

昨年度は、ばんえい競馬永年の念願でありました発馬機（ゲート）の設置をはじめ、馬主、騎手に対する諸手当の新設増額等公正競馬の維持確保に努め、その成果をみる事ができました。

新年度においては、市営競馬がより大衆に健全娯楽として愛好されるため公正確保の諸対策を推進することは勿論のこと、きゅう舎側馬主、騎手等の経済の向上を図るべく主催各市は鋭意予算化を推進しているところであり、この点についてはご期待に沿うるものと確信いたしております。

ただ残念なことは懸案でありました競馬一部事務組合の設立が諸般の事情から一步後退し設立さえ危ぶまれる状況下にあることであります。

このことにつきましては四市一丸となつて道当局の適切なるご指導を仰ぎながら初期の目的に向つて今後とも邁進してまいる所存でございますので、関係機関各位の絶大なるご支援、ご指導をお願い申しあげご挨拶いたします。

昭和四十七年四月



# 躍進するばんえい競馬

旭川市農政部長

大久保 吉 蔵

ばんえい競馬の発展は近年まことにめざましいものがあり、このことは競馬ファン層の増大を示すものであります。

市営競馬の誕生は昭和二十八年で、それぞれ関係者の並々ならぬ苦勞と、たゆまざる努力とにささえられ、今日の隆盛を見るにいたりました。

しかしながら、近年、公営競技に対する世論は、誠にきびしいものがあり、公営競技は、ファン大衆の支持という大きな基盤のうえに立ち、主催者並びに関係者は、公正明朗な施行に万全を期し、よりよい運営面の改善を推進しなければならぬことは、ご承知のとおりであります。

四市競馬の過去三カ年間の前年対比伸長率を見ると、売上額は昭和四十四年度一五・五%、四十五年度は一・九%、四十六年度は三十三億七千万円で一三・六%であり、また、入場人員では、四十四年度で一三・〇%、四十五年度は一〇・三%、四十六年度は十九万六千人で一・二五%であった。

これを見てもわかるように、ばんえい競馬に対する大衆の支持は非常に大きな増加を示しており大衆に密着した競馬運営を各主催者が考え、それを実現した賜ものであると存じます。

この伸展の理由を分析してみると、まず近年レジャースポーツに対する国民の要求度が強くなってきたこと。それに伴う施設の整備及び競馬の公正化を通じ健全娯楽として成長させるため各主催者はたゆまざる努力を傾注し実践してきたこと。

また、レース内容も農林大臣賞典レースを始め、数多くの重賞レースを編成しファンの期待度が増したことなどが伸長の要因であると思えます。

今後、一層ファンの期待に応じるためには、われわれ競馬関係者の任務は非常に重く競馬三悪（暴力団の介入・名義貸・薬物投与）の追放はもとより、公正化のための施設と人員の整備、きゆう舎管理の強化等の対策を講じ、ばんえい競馬が健全な娯楽とし、道民から親しまれる

スポーツとして、発展させなければならぬ。

また、本道は地域も広く、競走馬の産地であることから、馬産地北海道の地方競馬は従来とも馬産振興と畜産関連産業の振興に寄与しており、特にばんえい競馬においては、農林省当局においても、このことの強い認識のもとに育成

## 最近の報道記事から

◎地方競馬（全国協会発行）一月号  
「年頭の叫び」 奥原会長巻頭言  
地方競馬は今重大な段階にさしかかっている。危機的様相という表現を使いたい位だ。

主催公共団体の直営方式は、昔の馬連競馬に比し、地方競馬の信用確保に大きな功績があったが、開催権と管理体制の安定にマイナスの効果を及ぼしている。大部分の首長が施設整備、公正運営、環境改善に積極的な中にごく少数が地方競馬の廃止を行なおうとしている。今こそ総ての地方競馬関係者は単なる財政競馬を超えた、地方競馬の本質的意義に関する意識統一と実践に立ち上らなければならない。（以下略）

## ◎競 週 四十六年十一月号

「蹄声耳語」  
（前略）競馬を防衛することは最早やギャンブル論議でもなければ、馬券の財政機能でもない。競馬が一つのインダストリーとして存在価値を主張し

強化には好意的であり助長策を考えているやに聞き及んでおります。

関係者は、これらの現状を大きく、ふまえて、一丸となり誇りをもって公正競馬の維持確保につとめるならば、前途は洋々として躍進の一途をたどることは、夢ではなく、実現できるものと、確信いたします。

得られるかどうかである。馬券なくして競馬産業は運営できない。だが馬券のために競馬があるのではなく、競馬のために馬券があるのだという、この基本認識、この近代競馬の原点が目的と手段とを転倒しているところに戦後競馬をこう社会的に誤認させたのである。

誰れが競馬を最後まで防衛する力を持つか、ファンでもなければ競馬の施行者でもない、生活を賭けた競馬人である。（後略）

## ◎地方競馬 四十六年十二月号

「地方競馬四十六年のしめくり」  
盛川 一 生氏

（前略）都道府県に何故競馬を集中しなければならぬのか承知できない。（中略）都道府県に競馬をしばらく地方競馬は安泰で繁栄するという当時の河野農相時代の考えが十年もたないうちに春木落城寸前という問題になり、又東京都の四十七年度限り都営競馬廃止声明という結果になったわけだ、知事がやめるといえばその競馬場はなくなるという。（後略）

# ばんえい競走とは どんな競走か (2)

内田 靖 夫

北海道市営競馬協議会事務局長

まんが うちだやすお

(前号のあらまし)

1、ばんえい競走のおこり

ばんえい競走は北海道開拓農民の厳しい生活環境の中から湧き出るように発生した。はじめは綱引きのように二頭の馬が互に引張り合うやり方で、そのあとには荷車を歯止めにして動かないようにし、人間が乗り、何人乗せて引っぱったという力で力を競い合ったり、馬の値段をきめたりした。

2、競馬法に入れられたばんえい競走

3、ばんえい競走の馬

4、本道産業上馬産振興との関係

5、馬産振興上ばんえい競走の意義

体重だけ偉大であっても鈍重で意思力のとぼしいものではばんえい競走馬に向向であるということが、きわめて馬産上に有意義であるばかりでなく、それが北

海道農ばん馬の資格として符合するところこの地方競馬は重大な意義がある

(酪農大學講師田垣雄氏の文獻より)

6、馬にとってははらかなスポーツ

7、ばんえい競走の特殊性

8、騎手さん

プロとしての技術を要求されているが相当高額所得の連中もおり、異色の競馬タイプである(農家が約五五%)

9、コース

幅一米八〇のコースが十列で十頭立

10、選手村入厩

11、馬検査

馬名登録、特徴照合、健康、体重計量

能力調教の五つの検査を受ける。

12、全馬能力検査

古馬も新馬も全馬毎年受ける。

13、馬のわけかた(重量と賞金で区分)

14、体重の重い馬は強い

15、ひびる重量

16、負担重量の研究

17、ハンデキャップレースをやる

18、走る条件の承認(出走投票)

19、競走に使う用具

20、目方をはかる(検査)

21、レース登壇

22、騎手や籠などの目じるし

23、スタート



24、競走

VTRバートル、タイム測定フォトリ

ャートは一斉に作動し馬群を追いかけ

る。審判は公正着順走路に分れている。

25、ゴールイン勝馬きまる

ばんえい競走のゴールインは籠の後端

26、ばんえいの手想はあたるか  
的中率は概ね平地競走と同様である。



# 1、ばんえい競走、

## 法にのる

戦後、ばんえい競走が競馬法の中にいれられ、馬券を売ってやる公式競馬として、ファンの前で行なわれるようになった。

そのように歴史は浅く昭和二十一年十一月公布された地方競馬法施行規則第九条で「競走の種類は駈歩速歩障害ばんえいの四種とする」ときめられてから、これとして二十七年目ということになる。

これは世界的にも珍らしい法制化で、実際のところ我々は驚いたり、サテどうやってやるのかしらんと戸惑ったりしたものだ。

なぜこれが競馬法の中に入れられたのか、当時この地方競馬法を審議制定した第九十帝国議会の記録によると、

「現行競馬法による競馬と、本地方競馬法案によって再開せられんとする地方競馬との差異は目的上、前者が種馬の選定と健全娯楽を主たる目的としているのに反しまして、後者は産業用役馬の能力増進と馬事思想の普及による馬産の奨励とその収益金を馬事施設に使い、かくして食糧増産その他産業の発達を期することを目的としている点であります。(中略)

わが国現下の食糧問題解決のためには肥料の増産と耕地の拡張改良とが急務中の急務であります。(中略)

厩肥は無機肥料の不足をおぎない地力

を増進し食糧増産上非常な効果がありますことは衆知のことです。又耕地の開墾、干拓、耕うんなどは馬の力を要するところ莫大であります。しかるに馬は近年著るしく減少して、既墾地の耕作上にも極度に不足する状態でありまして馬の生産増加と産業用優良馬の保持とは急務中の急務とするところであります。

敗残に国民は疲れ果てていた。喰うに食なく、住むに家なく、まとうに衣服はないという有様だった。そこへ戦地から帰る軍人、満州朝鮮樺太台湾から引揚げてくる邦人が巷にあふれた。食糧増産は国民の叫びでもあった。

ばんえい競走馬即産業用馬生産の基盤は農村にあり、馬と共に生活する農村地帯でなければばんえい競走は開催しえないものであったからである。

敗戦という未曾有の混乱の中にあつてわが国の馬産はもはや軍馬としての目標を失った。地方競馬法が発足したとき馬は本道のような馬産地で絶えることなしに生産されていた。それは当時の社会事情にもあったがまた馬産農家の馬への愛着がそうさせたのであった。当時誰が現代のような車の氾濫を予想したものがあつたらうか、馬はやはりその頃農耕輸送の大きな機動力として、また肥料資源として重要であつた。

なお畜産振興資金の獲得、インフレ防止、国民の健全娯楽、無統制に行なわれている競馬を統制する趣旨から法の制定が必要であるとしている。

食糧増産と産業用役馬の造成を大目標とした立法の精神からみればばんえい競走が競馬法の中に加えられたのは当然のことであつたのである。

また永年軍馬と食糧の生産に骨身を削り、今その目標を失って打ちのめされた農民に対する贈物であり勇気づけでもあつた。

## 2、敗戦の失意へ

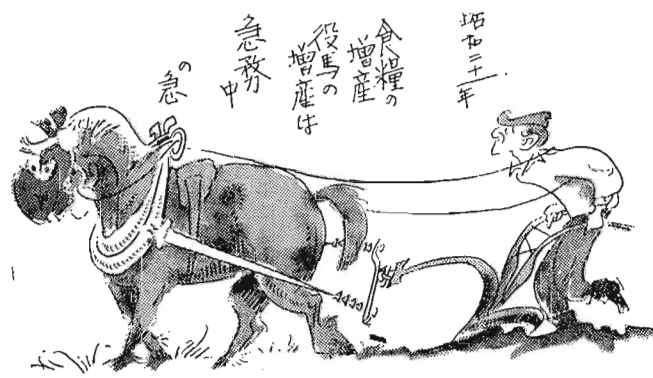
### 贈られたばんえい

尤もこの法案が審議されたとき、将来食糧事情やインフレが解消した場合についても話が出たが、当時の切迫した事情は、何時やってくるかしのれない将来のことなど、その時点で考えればよいということまで終ってしまったようである。

食糧増産の急務、馬の増産は

しかしばんえい競走の法制化は我々日本人がかいびやく以来経験したことのない敗戦という衝撃と、荒廃の中から生れたものと思うのが当を得ているのかもれない。

その頃の国土は焼夷弾と銃爆撃で焦土と化し、昭和十二年以来八年間の戦争と



## 3、公式ばんえい

### 競走の幕あけ

昭和二十三年九月新競馬法の発足で競馬は国営となり、地方競馬は公営となったが、ばんえい競走はそのまま受け継がれた。

農村のレクリエーションとしてお祭などに行なわれていたばん馬競走は、そのままの姿で北海道と青森県の競馬ファンの前に躍り出てきた。

昭和二十二年馬匹組合連合会主催の下に旭川十月十六日、十七日、岩見沢十一月二、三日各二日間行なわれたばんえい競走は、本道における競馬法によるばんえいの嚆矢となった。

旭川では出走馬百十四頭売上二百八万円、岩見沢では出走馬六十九頭売上は兩

引崇られたとはいえ僅か九十万円、平地競馬当年の成績は旭川一日平均百一十一万円、岩見沢同百四十五万円であったからそれに比較し意外な不振のすべり出しであった。

青森県では浜館村浪打に新装の競馬場ができ一日二レースのばんえいが織りこまれて華々しく発足したが、不振つづきで昭和二十六年で廃場となつてしまった短命だったこの県有競馬場も当初から北海道名うてのスジ者がささり込み危惧していた処、そのためかどうかは判らないがアツという間になくなつてしまった。

とも角ばんえいはその歴史の第一歩を踏み出したのである。騎手はてんでの服装に胸ゼッケンをつけて、馬具や籠もみな自前、土をつめた俵を積んで、ねじり鉢巻で意気盛んであった。その頃の積載重量は貫目制で丁組百四十貫甲組二百貫というものだった。

規則ルールなども競走の前日半日かかってつめ込み式に教えた位のものであるその頃の平地競走そのものもだいたい幼稚であったから、そんなことでやれたのである。

それは産業用馬の能力増進、維持改良の使命を帯びて出発したばんえい競走の幕明けであった。

#### 4、馬について

馬は北海道開拓の頃から軍用産業用としての増産時代、敗戦と混乱、食糧増産

時代をへて、しだいに馬稼働場所が機械化されていく現代に到るまで、常にその消長は馬政治と国情に影響されてきた。

我が国の歴史は相当古く、遠く王朝時代にさかのぼるといえるが、おそらくは百濟、高麗からの貢馬を土台として、朝廷の親政によって改良生産されたものといわれている。

本道の馬産はその起源沿革がさだか



ないが、元正天皇の養老二年、東北北海道の蝦夷八七人が馬千匹を献上して位を貰ったとあるから、今から約六百年前既にかんりの馬がいたわけである。文政五年には千五百五十三頭という記録がみられる。明治前後から開拓に従事していた農民が使っていた馬は小型で四尺（一米二十）そこそこの土産馬であったようだ。種馬として移入した南部馬も四尺一

寸から三、四寸（一米三十）位で、たて鬚長く貧相粗野な和種（ドサンコ）は開拓民と共に原始林の伐採に、薪木の運搬に、農耕とに縦横の活躍をしたのである

#### 5、馬産のもりあがり

そのあと明治二十年には四万五千二百十四頭、明治三十三年には十一万六千八百七十四頭となり、日清日露戦役後馬の必要性と改良は国政上の重大事項となり明治三十九年勅命によって、いわゆる兵農両全軍務両途に基盤をおいた馬政三十年計画がたてられ実行された。

計画は着々その効果をあげ昭和元年には全国の総馬数は百四十四万四千頭を数え、昭和七年遂に計画の百五十万頭を突破し、百五十四万一千八十六頭の頂点に達した。

本道では昭和十八年三十万頭を突破しこのとし生産頭数も本道最高の七万六千二百七十四頭の記録を作った。現在一万頭にも満たない生産と較べて誠に今昔の観がある。戦後目標を失った馬は一旦二十七万頭台に減少したが、二十八年二十九年三十万頭近くに盛りかえし、三十年には二十七万頭になり、それから三十七年まで二十五万頭前後の頭数を保つたのである。

#### 6、なだれ現象時代を 迎える

しかし翌三十八年からは俄然急坂を滑

り落ちるように年間一万五千頭乃至二万頭の落調は止まるところを知らず、昨年二月現在では十万頭の大台を割って九万八千頭となった。そのうち軽種は逆に増加しているから重種中間種の激減が目立つのである。

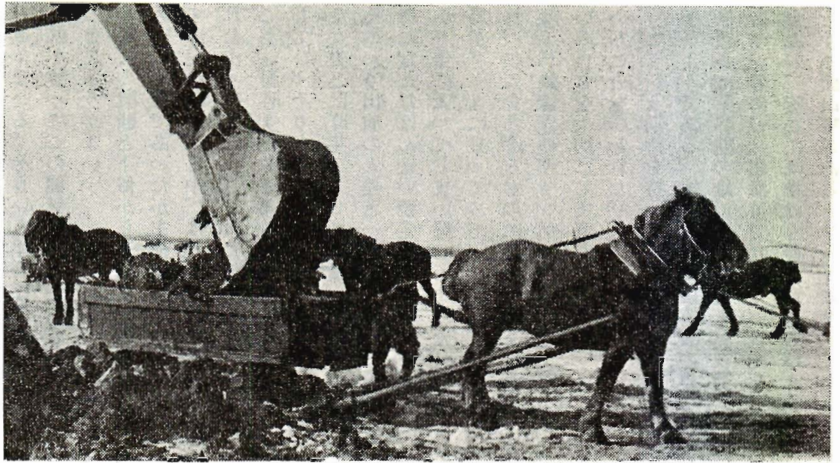
昭和二十八年から十年目毎の本道馬頭数をみると、三十七年には約五万七千頭二十％の減であるが、それから十年たった四十六年には約十五万頭六十％の減少となり最近の減少が極めて激しいのが判る。

#### 7、馬はいらんのだらうか

このような産業用馬の減少は主として食糧過剰時代の到来、農林産業の機械化によるものであるが、一方では開伐造材、客土などの冬の使役、トラックにはできない、障がい物の多い地形、道なき原野、丘陵、凸凹、狭隘、積雪など複雑な地形の搬送、乗用車では及ばぬ細道行進、一八〇度廻転一点全回転など、とも角一歩一歩足をあげて進むという動物ならではの機動性は高く評価され本道の風土上ある数の馬はぜひ必要だといわれている。この特性を研究して動物の歩法と同じように進む機械を試作している技術者もいる（三月九日七時三十分NHKテレビ）

その上人間と同じような感応力という到底機械では真似できない性能がある。人が眠っていれば車は忽ち暴走衝突





岩見沢稔町客土作業

って健康を害する人もなく命に係るほどの公害はない。都会を離れば貴重なこやしである。

車は速くて力も強い、馬は車ほど力はないがそんなに劣ってはいない愛情がある。手はかかるが鼻をならす、遠ざかれば嘶いて人を呼ぶ、馬の良さはとても書ききれない。

米国のように機械文明の先端をゆく国でさえウイスコンシン州ミルオーキー地方ではベルジン種という重靱馬を使って、二頭曳き三頭曳きの馬耕が行なわれ、村落の祭事にはばん馬競走もやっているという（早来町橋本善吉氏）懸念されることは落調が激しすぎると生産事業（種牡馬の管理）が困難となり、それが全体の減少速度を一層早めて、その激流は当然あるべき需要さえも削りつついていくことである。

### 8、ばんえい競走の意義

全体の馬頭数が減っているのと逆に、ばんえい競走馬は年々増加している。しかも最近の資質の優秀なものが多く、二、三年来ほとんど七〇〇K以上の馬ばかりが集ってくる。

本年の出走申込馬（流感予防注射申込馬）は既に六八〇頭を突破したが、これは昨年の五五四頭をはるかに超えている。

このことはばんえい競走そのものが優秀産業用馬の生産振興に貢献していることを示すものであるし、また馬需要の経済循環の中に重要な地歩を占めてきた証左ともいえる。

この現状を直視して、かねての懸案である馬産対策を中心としたばんえい競走の構想を着々と進めているところである。

そこに重要な開催目的があるのだと思う。

### 9、愛されるばんえい競馬

だがもうひとつ大事なことが別にあるような気がする。

それは作家佐藤愛子氏が先年岩見沢のばんえいをみて書かれた一文に感じることがができる。

「ばんえい競馬というものは年中行事のひとつとして農民が楽しみにつつけて来たものである。いつもは畑を耕し農具や雑穀を運んだりして一生懸命働いている馬が、今日はお祭として労働から解放され人と同じ朗らかな心になって競走する。

ここにこそ本来の馬の姿があり遊びの精神があるのでないか、私はひとりで感動した。

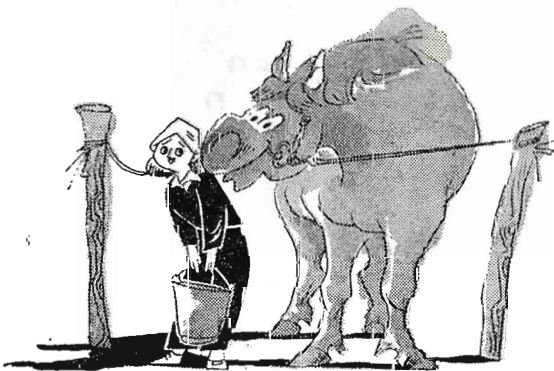
遊びというものは働きにつながらねばならぬ、中央競馬の馬などけしからぬ、

競走し金を稼ぐために美食してカッコよくなり、タテガミをミツアミにしたりして気取っている。

岩見沢は雨であった。久しぶりでドロドロぬかるみを歩く、東京の暮しのなかからはもうぬかるみというものが姿を消した。こうなるとぬかるみ、馬のウンコ何でも嬉しい。」

女史独特のザックパランな筆致でばんえいの楽しいふんい気が描かれていく、そしてまた

「まさにここに人生がある。コン畜生と思う馬は頂きを踏越える、もうあかんとすぐに思うような根性なき馬は立往生して途方に暮れた顔、他の全部の馬が引





揚げてしまったのをみて、ゴロリと横ざまに転がってふてくされていく。馬の中にも今どきの若者みたいな馬がいるのである。

まったく馬の人生はきびしい。人間の世界にはもうこのように鞭うつ人がいなくなつた。

だから人間は山頂をめざすことをやめて、セリ上がりベットのうえでいちやついで喜んでいく。そういう手合は北海道岩見沢へ行つてこの健気な馬たちの奮闘努力を見習うがよい」

都会の喧騒と下俗から逃れて、当日はあいにく雨であつたが主催者にも知らずに、小雨けぶる中、はるか緑林に被われた山々や丘にかこまれた競馬場をあらち、野性美溢れる重軌馬の競走を見物してひっそりと帰られたようである。

女史とは昨年テレビでお逢いしたが、そのおり出演の人達と一緒に「素朴で野趣に富んだばんえい競走を一度みてすっかり気に入つてしまい感心しました。競馬がブームに乗ってスポーツ性がうすれ、収入をあげるものになったら、それはテラ銭稼ぎのギャンブルです。ばんえいの良さを大切に育てて下さい」ということをいわれた。

こういう期待を持っている方はだいぶ多いようである。地方競馬全国協会の奥原会長は業界誌の雄である競週と昼夜通信の記者に、「北海道ではばんえい競走を見たが、そこにはやはり産地競馬のほんとうの面白味があるとファンになつてし

まった」と語つておられる。

肩書いかめしい競馬監督官の皆さんもばんえい競走を一面そのように考えている人が多い、それはいかにもこの北辺の風物をつくしみ愛するといった調子で我々に感銘を与えるのである。

こんなところにばんえい競走のもうひとつの大事な開催目的があるように思われる。

北国の郷土色として、レクリエーションとして、明るいはんえい競走をうち立てることこそ、馬主騎手厩務員、我々の責務であろう。

こんど農林省にできた競馬懇談会のただ一人の婦人委員となられた女史をガツカリさせてはならない。

### 10、楽しいばんえいつくり

楽しいばんえい競走をやるには先づ競走を公正にやるということであろう。

競馬場内外を公園化し、婦人児童の休憩所と遊園を設け、交通を渋滞なく整理し、執務員は規則正しくキビキビとした処理で、ファンサービスにつとめ、大空のもとと広大な馬場で豪快なレースを展開し喝采をあびる、というのが楽しい競馬つくりであろうが、あちこちで起つてくる黒い霧事件のことを思うと我々執務員はもう全力を競走の公正確保にそそいでしまふのである。

このこと一すじに傾倒することがファンに楽しい競馬を見てもらう唯ひとつの

どんちゃん  
せまい



道でも

### 11、ばんえいの問題点

かつて我々はばんえい競走というものは果して競馬の競走として大成するものかどうかという点に疑念をもっていた。そのことは専門家が等しく考えていたことである。

その最も問題となつている点は競走中停止して息を入れるという特殊なレースにある。もしその停止を利用して不正が行なわれたら、それを看破する手段はあるまいという懸念である。

五年前ばんえい専門団体の職員として招かれた私には先づ第一にこれを解明する使命があつた。それが解明されなければ私は何年かあとに速歩競走と同じよう

にばんえいは廃止すべきであると進言して職を辞すべきだと考えていた。

解明もできない疑問のままに便々として席をあたためていることは許されるものではない。或は又廃止を進言できないとすれば他に研究を譲つて職を辞すべきであつたらう。

しかしその技術は既に先輩諸氏がよく知つていたことであつたから、私は私なりの研究で補足し実際と理論とを結びつけて「きめ手」をうち立てることであつた。

昔は権威ある人がこうだと見たら理屈抜きで審判がくだつてしまつたようだが、今は実証主義であるから、相手が認めるか、抗弁の余地がないところまでつめるかなければ断定を下ろしがたい。それには何故そのように判断したかをよく説明して納得させることが大事である。

よく「競馬は疑わしきは罰する」ということをきくが、これはおそらくほとんど実証が揃つていて疑問の余地がない場合のことをいふのだと思う。

私は事務監査において監査委員から前人気と馬券の売れ方がまるきり違ふからこれは不正競走であると指摘されて長時間突込まれたことが何度かあつた。これは専門家でも怪しいと思うほどで「疑わ



しきは」の最たるものと思う。しかし馬券の売れ方はどこまでも傍証であって、それをもって不正と判定することはしていない。

あくまでも「疑わしきは罰せず」というのが信念であり「罪なき者を罰することほど大きな罪はない」、それは不正を発見しえなかった見落しや技倆未熟の恥よりも更に大きい恥である。

競走の公正を期するには先づ審判技術の確立が第一と考える。だが故に絶えざる研究によって審判眼識の向上をはかるため毎年審判研修会をひらき、ことしは第四回をやることになっている。これこそは何年やっても卒業とはならないからだ。

出走馬が少なく能力が揃わない速歩競走の審判技術が頗るむつかしく、それがこの競走を廃止させたひとつの理由ともなったが、それに比較すると平地競走は容易であるとされている。

## 12、平地競走と共に

競走中停止するということは、平地競走の「馬なり」「ためる」「ひかえる」と同じであって、通常平地競走の場合にはスタートダッシュ後一〇〇米位（早いものは五〇米位）からひかえ目にし、他馬との関係を考慮しつつ時には歩度を早めたり押えたり、騎坐と腕で方向を操作して好位置につけ適当な距離（俗に三分三厘というあたり）から追い上げるとい

う戦法をとる。このように適切な能力の配分によって馬自体の全能力を十二分に發揮することが理想の騎乗法とされている。

この場合どこでひかえ、どこで歩度を早め、どこから追い出したかという判断は相当熟練していなければむつかしいがばんえい競走では案外容易である。

その簡単な一例をあげると、一昨年来全六百七十七レースについて、第三障害前で停止し息を入れている時間を計測してみたが、この仕事を臨時の女子従業員にさせたところ、五レースばかりについて教えこむと、あとはもうとめたときと追いついたときの判断ができるようになる。それは馭法動作が大きくはつきりし

ているからである。

競走中に騎手の意志でとめたか、馬の意志で自然にとまったかは臨時従業員で一寸面倒だが、大方のファンはよく知っている。更に微妙なところになっても平地競馬の審判専門職なら新参の人でもそんなに暇とらないのでみ込んでしま

う。追っているか追っていないか、やおちよう看破の技術は審判上最もむつかしく最も重大であるが、ばんえい競走の馭法動作には騎手の癖というか、個々の動作があってこれを熟知しておれば、丹念な記録と照合して判定はそう困難とは思われない。



## 13、敢闘するばんえい諸君

馭法動作の大きいもの、ほとんど動きのないもの（調教と騎手の技倆で馬はよく動く）特に追込むとき、接戦のときその独自の動作が激しく現れる。

この動作が有効かどうかは馬の眼の構造と位置から考えて、騎手の意志伝達には極めて有効であるということができ

る。つまり馬の眼は長い頸と、前後に廻転する耳と、おそらく人間の何百倍もあるであろう嗅覚とが助けて、三百六十度鋭敏にとらえることができるからだ（人間は百八十度）

「とまる」ということをあれこれと考えるのは、この競走に飛びこんで研究してみないからである。それはばんえい全部を色眼鏡でみることになってしまいおかしなこと、ばんえい諸君の名誉のためにも一言しておきたい。またこの競走を泥臭いとみる人があるが、それは反面素朴さにつながっており、郷土色としての良さでもある。大切なことは心の問題である。ともかく形の上のことだから年々洗練されていくことだろう。

ただ一団となって走る平地と異なり、幅十八米のセパレートコースに、時には八十米以上も散開して競走するばんえいでは一人の審判員が同時に全馬を視界におさめることが不可能な場合があるのでその点がむつかしいところである。





# 弓馬礼法

文治三年に流鏑馬（やぶさめ）が行なわれたのを始めとして弓始、奉射、笠懸犬追物等の儀式が小笠原家を中心として武士の手で行なわれるようになり、この中に弓と馬がその道具として用いられている。

北見市農務課

坂井清治

昔から「弓馬の礼」或いは「弓馬の道」という言葉がある。なぜ弓と馬が一緒になって「弓馬」という言葉が出来たのだろうか？

弓は神代の昔から狩猟の道具或は武器であり、馬は輸送機関と武器の附属物というようにそこに一致する点がないのである。そこで弓馬の下に礼法という言葉を加えると「弓馬礼法」という一つの言葉になる。この言葉は小笠原家が頼朝の時代に弓と馬をもって礼法を教えるという事で糾方師範に任せられた事から出て来たようだ。それ以前にも宮中のものであったが、一般武士にこれを簡略にして教えるという事で小笠原家が任せられたのである。現代我々が「あの子は小笠原流だ」「今日は小笠原流でなく無礼講でやろうや」という小笠原流とは基本的に異なっているようだ。

弓というものが神と結び付いているものだから礼法の道具として用いられることに不思議はないが、馬という生物が礼法の道具に用いられることは判らない。

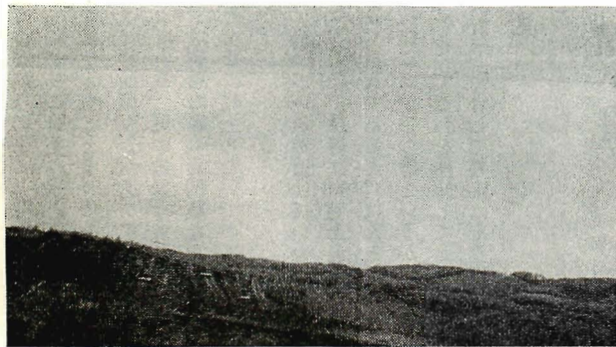
人前で糞も尿もするし、怒れば跳るといふ動作もするし、犬や猫と変らないのである。せいぜい変っている点といえは、お腹に子が留まると全く雄を寄せ付けないという律儀な点くらいだろう。（もともと一番不律野郎は人間だが）

しかし昔から馬は家族の一員であり良い馬を持つという事は名誉な事で、現在の高級車をもつ以上に意義があったようだ。馬にまつわる昔からの伝説でも、宇治川先陣争いの佐々木四郎高綱の「いけづき」「するすみ」号、山内一豊の馬曲垣平九郎の馬、又近代になってはロサンゼルスオリンピック大会西大尉の「ウラヌス」号迄名馬の物語はたくさんある

が、いずれも人間と馬との愛情によって結ばれたものである。これらの物語のいづれも単なる生物の馬に愛情をもって教えたことよって成立している物語である。

礼儀の礼など全く知らない動物の馬でも愛情をもって教えればむづかしい礼も出来るということを示すものかも知れない。

我々競馬に関与している人間は礼法をつかさどる馬を中心に生活しているものである。もう一度馬というものを単に競走の道具としてではなく別な角度から考えてみる必要があるのではないだろうか（北見市畜産係長 弓道五段）



整地の進む北見新競馬場

人間さま  
より  
だいぶん



そこで今年からパトロールタワーを走路正面にすえつけて、一機は常に全馬を画面にとらえ、今まで主催者直営でやっていたビデオも専門商社に変えて映写精度を高めることにしている。

昭和二十二年開幕したばんえい競走の様式は年を逐うて目ざましい改善をとり、発足当時のおもかげは今全くその姿をとどめていない。

歴史の浅いこの競走は更に幾多の研鑽と改善が加えられ、競馬法に規定する競走として、はた又大事な使命をおびた競走として、かい間見る金字塔に向って進んでいくだろう。



ため、実行委員会の各小委員会が協議し事業を進めていますが、関係各位におかれましては、絶大なご理解と、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一、岩見沢競馬の記念誌を編さん発行します。

明治二十四年祭典奉納競馬から戦前戦後を通し、競

四、駒おどり（予定）と納涼花火大会の開催

夏の夜空競馬場において盛大に花火大会を行ないます。馬にまつわる駒おどりもあわせて行ない、市民の憩いの場所としても更に子供遊園地のご利用をいただいております。

五、乗馬クラブの設立準備  
競馬場内に乗馬クラブの馬場を

## 名義貸し防止対策について

昭和四十六年七月十九日付で農林省畜産局長から各主催者の首長宛に名義貸し防止対策に関し、主催者が行う調教師に対する指示事項について通達がありましたのでその概要を申し上げます。

一、調教師の名義を他人に使用させてはならない。  
以上のようなことです。  
なお念のため印鑑証明書及び委任状等の提出先は次のとおりですから参考にして下さい。

☆印鑑証明書の提出先  
北海道市営競馬協議会

一、名義貸しに供されていることを指示日（昭和四十六年十月二十三日）以後に承知したときは、  
（一）すみやかに主催者に届出ること。  
（二）預託者（馬主）に対して名義貸しの解消を要請すること。

。地方競馬全国協会  
馬登録  
馬主登録  
馬登録変更届  
馬登録証再交付  
馬主登録証再交付  
馬名変更

一、指示日以後預託契約する場合には文書（預託契約書）をもつてし、使用する印鑑は印鑑証明を受けたものとする。

以上各一通

一、主催者に預託契約書の写しと印鑑証明書を提出すること。

☆委任状の提出先  
。岩見沢市  
。旭川市  
。帯広市  
。北見市  
の各競馬開催毎に所有馬を連記したもの

一、調教師は馬主の委任状（印鑑証明を受けた印が押印されている）がなければ馬主を代理しては行ない。

☆預託契約書（写）の提出先  
。北海道市営競馬協議会

一、馬を入退既させるときはその旨を主催者に届出ること。

一通

# 岩見沢競馬場開設五十周年 市営競馬施行二十周年 記念事業の行事

本年度岩見沢競馬は公認競馬場として開設されてから五十年に当たり、又、市営競馬施行二十年と岩見沢の競馬事業にとっては意義のある年にあたります。

岩見沢地方競馬協力会においては、この記念すべき年に先人の労苦と数多い偉業をたたえ、今後の健全な競馬の施行をすすめるため岩見沢市内の有志を集め記念事業をとり行うべく実行委員会を結成発足しました。

主な記念事業は次のとおりですがこの事業を盛会祝に終了させる

馬にまつわる記事を編さんしていただきます。

二、競馬の歴史を語る座談会の開催  
先輩各位のご苦勞をねぎらい競馬を中心とした座談会を過般一月二十五日市民会館で開催しました

三、記念植樹の実施  
岩見沢競馬場内或は周辺の環境保全と公園化を進めるため植樹を行ないます。

つくり、青少年の健全な育成をはかるためその設立準備を進めていただきます。

六、記念レースの展開  
市営競馬において記念レースを編成します。

七、記念式典、祝賀会の挙行  
記念式典を挙行し功労者等の表彰を行ない意義ある事業について祝賀会を実施します。  
（岩見沢市・市村畜産係長）



# 北見管内二才馬共進会

## 測尺値の推移

ホクレン北見支所

堀内精司

北見管内の馬産は農業の構造及び近代農業の機械化推進により、管農上に於ける馬の位置が薄らぎ昭和二十九年を頂点として年々飼養頭数が減少し現在一万頭を下廻る小教となった。然しながら反面改良に於ては昭和二十九年より、フランスからアングロノルマル一頭、ブルトン二十七頭、ベルシュロン三頭を輸入し現時代に適合せ

年度	出陳頭数	体高	胸囲	管囲	市場価格		
					最高	最低	平均
37	35	150.1	192.0	23.60	230,000	68,000	107,275
38	24	150.7	196.0	24.00	375,000	70,000	131,200
39	16	153	199.0	24.20	461,000	63,000	135,978
40	11	153.1	203.0	24.90	300,000	100,000	180,800
41	25	152	201.0	24.40	370,000	66,500	186,948
42	29	153	198.0	24.10	300,000	80,000	159,500
43	12	154.8	199.8	24.60	405,000	122,000	180,500
44	9	155.7	202.0	24.10	385,000	117,000	279,000
45	20	157.9	208.0	24.80	600,000	135,000	293,600
46	30	158.9	208.5	24.78	610,000	161,000	297,125

る即ち体積の増大、早熟性、運動性の改善をはかり馬産経済の向上につとめその効果著しいものがあった。過去十年間に於ける北見管内総合家畜共進会出陳二才馬の測尺結果は次のとおりである。

### 北見管内に於ける馬生産減少の考察

当管内に於ける繁殖可能雌馬(四十五才まで)は六、〇〇〇頭飼養されているが昭和四十六年の種付頭数は一、二七四頭で適合雌馬の二十一%のみの繁殖率で大きな経済資源を活用されていない。

現在の馬の主なる消流体形は肉資源、輓曳競走用、一部農用と三段階であるが、このままの生産状況及び飼養頭数の減少率を見るときこ数年のうち生産用種雄馬の維持困難となり繁殖皆無の重大な時期到来はまぬがれないものと心痛するものである。そこでその繁殖率低下の原因を考察するに

一、全体的に馬飼養頭数の減少により過疎状態になり現況の種付形態(巡回種付)では範囲が広過ぎる。

二、種雄馬の一頭当り平均種付

は五〇頭であり五〇頭以下の地区では種雄馬の維持が出来ない。従って馬の生産を中止するか或は最寄の町村の種雄馬を活用するよう助成措置を講じているが農繁期にわざわざ出向いてまで繁殖する生産者は皆無に等しい。

三、生産馬の価格は特殊馬(輓曳競走用)を除き物価指数から見えて安い。

四、馬の飼養者は一戸平均〇・八頭である、従って農耕期に於ける種付業務、及び生産駒は農作業に支障を来すので、繁殖をひかえる。

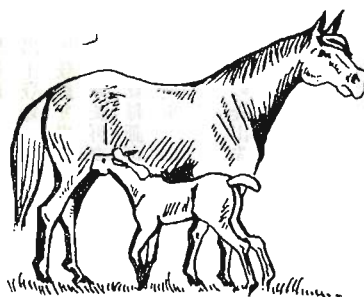
五、都市近郊に於ける農作物は蔬菜及び特用作物が多い、従って生産駒による圃場荒しが生産の隘路となっている。

六、老人は生産経済から見て繁殖を希望しているが青年層にその関心が全くない、種雄馬管理者が強い種付を実施しようとするとき家族内にトラブルが生ずることすらある。

七、馬飼養の過疎で種雄馬の巡回範囲が広域にわたるので繁殖生理上の適正日程にずれを生じ受胎

率に影響し種付料金の無駄を憂慮し繁殖をひかえる。

八、種畜管理者の経済性が低い(赤字)ため他の業種(副業?)を兼ね、適正種付適正巡回が不可



能である。

九、種畜管理者の年令は平均六〇才で繁殖指導等前進性がない。

十、斜陽馬産ムードが先行し、又国、道及び団体等に於いても政策に馬産のない現状にあり指導方策皆無にひとしい、従って今何等かの方策がなされなければ馬産ムードの向上は望み難いものがある。



## 昭和46年度 主催者別売得金成績

主 催 者	期別	売 得 金 額	1 日 平 均	賞 金 額	入場人員	1 日 平 均
旭 川 市	1	249,430,700	41,571,783	10,853,000	19,600	3,266
	2	347,207,300	57,867,883	14,601,000	18,437	3,072
	3	433,979,800	72,329,966	16,077,000	18,963	3,160
	計	1,030,617,800	57,256,544	41,531,000	57,000	3,166
帯 広 市	1	220,184,700	36,697,450	6,489,000	18,000	3,000
	2	267,831,400	44,638,566	6,692,000	17,320	2,886
	計	488,016,100	40,668,008	13,181,000	35,320	2,943
北 見 市	1	158,070,700	26,345,116	5,900,500	10,899	1,816
	2	231,664,900	38,610,816	6,275,000	12,392	2,065
	3	254,226,000	42,371,000	7,009,000	11,833	1,972
	計	643,961,600	35,775,644	19,184,500	35,124	1,951
岩 見 沢 市	1	243,132,800	40,522,133	9,979,000	14,962	2,493
	2	328,411,500	54,735,250	12,575,000	18,866	3,144
	3	305,694,300	50,949,050	13,091,000	16,393	2,732
	4	332,729,500	55,454,916	14,847,000	18,239	3,039
	計	1,209,968,100	50,415,337	50,492,000	68,460	2,852
合 計	12	3,372,563,600	46,841,161	124,488,500	195,904	2,720

## 昭和46年度 道営売得金成績

競 馬 場	期別	売 得 金 額	1 日 平 均	賞 金 額	入場人員	1 日 平 均
札 幌	1	1,238,386,800	206,397,800	39,217,000	67,138	11,189
	2	1,268,628,800	211,438,133	39,441,000	60,535	10,089
	3	1,609,828,000	268,304,666	43,131,000	79,985	13,330
	計	4,116,843,600	228,713,533	121,789,000	207,658	11,536
岩 見 沢	1	543,488,000	90,581,333	17,414,000	41,967	6,994
	2	512,768,600	85,461,433	19,373,000	31,300	5,216
	3	444,027,100	74,004,516	17,416,000	23,717	3,952
	4	534,435,200	89,072,533	20,045,000	29,339	4,889
	5	855,522,100	142,587,016	22,485,000	45,642	7,607
	6	759,248,400	126,541,400	24,574,000	36,029	6,004
	7	725,607,100	120,934,516	26,268,000	34,378	5,729
	計	4,375,096,500	104,168,964	147,575,000	242,372	5,770
旭 川	1	401,119,600	66,853,266	18,202,000	28,599	4,766
	2	362,422,500	60,403,750	17,129,000	22,780	3,796
	3	416,803,900	69,467,316	17,455,000	25,305	4,217
	計	1,180,346,000	65,574,777	52,786,000	76,684	4,260
帯 広	1	198,711,000	33,118,500	16,509,000	17,839	2,973
	2	220,156,300	36,692,716	17,037,000	17,049	2,841
	3	279,312,400	46,552,066	17,316,000	18,597	3,099
	計	698,179,700	38,787,755	50,862,000	53,485	2,991
合 計	16	10,370,465,800	108,025,685	373,012,000	580,199	6,043



# 【四十六年度ばんえい便り】

## 1 監督課長北見を視察

新任の塩田監督課長は札幌の全国会議に出席のあと空路北見に飛び、ばんえい競走を親しく視察された。監督課長がばんえいを見られたのは先年帯広之月本課長がこられたことがあるが、ほかに用事もあつてか短時間であつた。こんどはゲートから馬が飛び出すところから一緒に第三障害まで走つて来てみるという熱心さに、厩舎の連中も驚いたり感心したり、こんなによくみてもらったのは始めてと主催者も大満悦。

この日共済会の林田理事、啓衆社の田辺常務も共に来場しまるで中央の来賓デリーの観があつた。

## 2 奥原会長は

旭川ばんえいに

地方競馬全国協会奥原会長は旭川第一回第二日目道畜産課長の案内で来場、ばんえい初の協会リディングジョッキー賞を授与し、競走を視察の上帰られた。表彰者は三浦忠、島中芳勝、金山明彦の三君。

## 3 馬事指導家

馬検査を視察

馬の知識として著明な村山豊氏

(元農林省種馬牧場長)は第一回旭川で四百八十頭に及ぶ馬体検査と能力調教検査を二日間にわたつて視察された。馬の専門家が競馬以外の行事で視察されたことは珍しいこと、これは激しい馬の減少の中で、ばんえい競走の在り方についての研究と思われる。

## 4 入厩馬記録を

作る

初回開幕の旭川では入厩馬五百十六頭となり従来の記録を更新した。又年間総頭数五百五十四頭も新記録である。質の良い馬が多くなったことも記録的。



## 5 競馬監督

七月の岩見沢に田口、工藤両氏九月の北見に鈴木地方班長、大越氏の各監督官が来場懇切な指導と講評を行なった。

## 6 北見の雨合羽

秋の第二回北見競馬は連日の雨もよいの天気の時折驟雨があつて



ながい間待望のばんえい用スターティングゲートは全国協会の助成によつて、北見競馬からその威容を現わした。

一頭分の枠幅は一米八十で平地の二倍以上もある。大型の電動式ゲートはその活動開始によつて幾多の発走問題を一挙に解決、本番使用のレースから口取りは一斉にゲートから離れ、ばんえい競走発足以来二十五年にして口取馬丁なしのスタートが切られた。

## 8 騎手試験

秋期に実施

昭和四十四年秋以来全国協会に

懇請してきた騎手試験秋期実施については、他県の日割と競合して困難のところ、本道の実情を認め当年実施に踏み切り十月五〜八日の四日間、旭川で百七名について行なわれた。

これによつて調教師は年内に合否が判り、冬期間に充分馬を吟味再編成して明春に備えることができるようになった。

## 9 平穏な中に伝賃の

憂色ただよう

ばんえい競馬は無事平穏が続いているが、創設以来二十有余年いまだ一頭の発生もなかつた伝賃が爆発的にばんえいを襲つた。

六月二十六日には北見に各市が集まり予防対策をたて、又八月五日には岩見沢に道関係職員、各地元保健衛生所長に出席して貰つて防疫会議をひらいた。

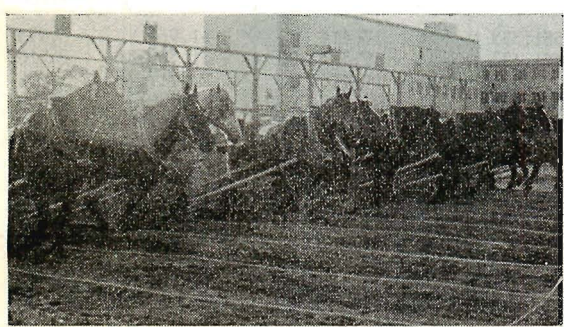
北見と岩見沢が発生のピークとなつたが、市の職員は連日徹宵の予防業務に従事、さしもの伝賃も岩見沢を区切りにほとんど消滅し、その後散発的に発生をみたが、終息するに至つた。

## 10 全国主催者

委員長研修会

九月二十三日全国公営競馬主催者協議会主催の委員長研修会は北

7 スターティングゲート活動開始





北海道では始めての開催、会場は由緒ある赤レンガ内の道庁会議室、特に畜産局長が空路来札し、競馬非常の訓告をして直ちに又空路帰京されたが、この会に局長が出席したことはかつてない事で、容易ならぬ時代を感ずる。

11 厩舎自衛委員会

業務分担をきめる

昭和四十四年春騎手会内に設置された自衛委員会は、一層の活動効果をあげるため、昨年三月の代議員会で次のように業務を分担することとした。これは主催者側の意見でなく、自らやったところに特色がある。

☆委員長 宇高会長

☆副委員長 晴披、中西、松原

副会長

☆分担事項及び委員

1 厩舎居住者、厩舎区域の出入、厩舎関係の諸会合（晴波、土本、吉村、定塚、広富、佐々木、小瀬）

2 不正の談合、馬の危険防止

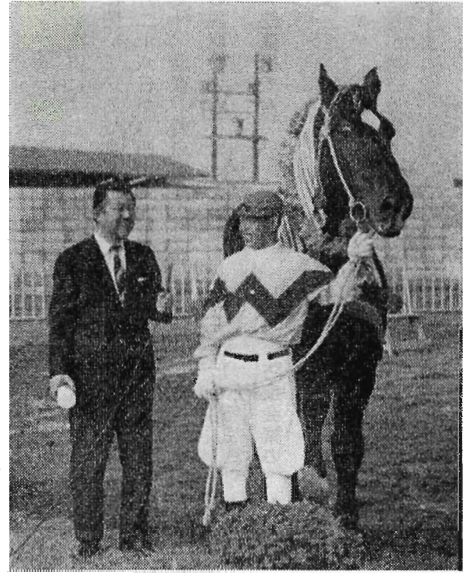
こうふん判、既務員届（中西、木村、鬼頭、坂本、重田、山田、橋本）

3 火災盗難、清掃整とん、その他自衛上必要事項（松原、上田、中村、大友、野々宮、三浦、藤川、平田）

12 惜しまれる

三名馬の引退

の名横綱若の花を思わせる技能型の名馬、引退後は家事労働に従事調教師は北見の松原仁三郎君、こ



45年テレビ出演のトキミノル号山本幸一騎手

A級の優駿トキミノル号は父ベール・ニタロン、母ベル、第二イデオメ、四十六年取得賞金二九九万円

で第一位、四十五年は二九〇万円

で第二位、体重一屯をこえる名馬、三才で初名乗りをあげ四才を

休み五才から再登場たちまち頭角を現わし

足かけ十年常にトップクラスにランクされていた。引退後は種牡馬として余生を送る、調教師は上富良野の山本幸一君。

ベニアラシ号は父重半、頂駿、母重半、如月四十六年取得賞金二

五〇万円

で第三位、四十五年は一六一万円で第四位、体重八七〇キロ前後の軽量A級でちようど角力

の二頭いづれも満年今の引退である。

四十四年彗星のように現われた名馬ハルトカチは父ベル、照和、母中半、紅姫で体重一屯、四十四

年の取得賞金二四五万円、四十五年は三七五万円

で二年連続第一位、四十六年は第一回旭川の最高

レース大祭記念に優勝したのち不治の業病にかかり北見で引退、帰郷間もなく死亡した、八才の最盛

期、哀惜にたえない。調教師は帯広の中西関松君。

13 馬主会騎手会

事務担当者きまる

馬主騎手会の事務局は本会発足の際旭川市から引継がれたが昨年一月の役員会で事務局長に晴波孝治君、書記に木村卓司君を委嘱して自主的に事務を処理することにきめた。

14 馬主の厩舎出入について決議

ばんえい競馬では当分騎手調整ルームを使用せず、かわりに厩舎の出入を一段と強化する主催者の方針に呼応し、十月の馬主会代議員会で馬主も一般人と同様の規制を受けて厩舎出入制限に協力することを決議した。

15 ばんえい執務研修会

全国協会主催で九月十六、十七十八日の三日間北見競馬場で開催業務方法書改正点、審判、発走、番組、制裁について研修を行なった。出席者二十四名、講師は野呂川村、横屋各専門役

16 馬管理者講習会

本会主催の馬管理者講習会は四月十五日から同十七日までの三日間、帯広市労働会館で開催、受講者三十四名、講師は軽種馬協会十勝支部西谷参事、全国協会東駐在

員、本会からは事務局長、業務課長。

17 馬事懇談会

八月二十一日十勝の西谷、永田中野三氏、北見の堀内氏など馬産の専門家が帯広市仙山閣に集まり本会事務局長を招いて、現下の深刻な馬産事情について懇談した。

18 開催回数について陳情

道畜産課長、北見栗村部長、旭川墓田課長、岩見沢小倉主幹、帯広花房課長は二月二十三日農林省におもむき、ばんえいの開催回数増加を陳情し、それより先十一月十六日には旭川墓田課長、岩見沢小倉主幹、北見坂井係長、本会事務局長の四名が同様陳情をした。

19 馬主騎手会代表陳情視察

一月十九、二十日宮越馬主会長宇高騎手会長、木村顧問、晴披事務局長は本会事務局長と同行上京、開催回教増の陳情後、競走馬理化学研究所で見学研修を行ないなお予定した騎手教養所の視察はインフルエンザ予防のため立入禁止だったので変更して全国協会中村理事以下関係の方々

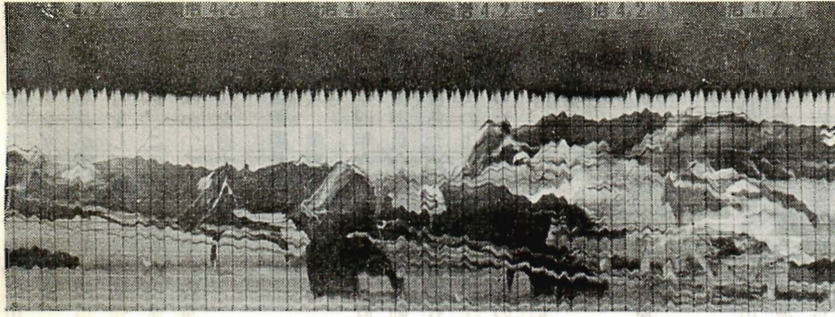


退京。

20 競走最中に

地震

八月二日岩見沢で第九レースA級平場の競走最中突然地震があった、おかげでゴールインの一着タカラヤマ、二着トキミノル、三着



シャリイチの判定写真はごらんとおり。

21 インフルエンザ

予防注射の実施

競馬に入厩する馬は全部予防注射をすることになったので、各地で馬主騎手会の支部総会当日その希望を受けたところ六六四頭の申込みがあった。このほか既に帯広、岩見沢集団飼養の一八頭が注射済なので、これを合せると六八二頭となり、昨年の入厩頭数五五四頭を大きく上回った。

22 馬主騎手会支部総会

繰あげ開催

インフルエンザ予防注射の申込受付を確実にする必要から毎年四月に開いている支部総会を繰上げ二月二十八日から四市で開催、申込受付、議案、競走実施方針諸行事の説明などを行なった。

22 鉄橋横てん

第一旭川の初日六月四日第二レースで、橋本騎手の八番ユタカヤマ号が第三障害で斜に切れアツというまに橋が横てんした。鉄橋では始めての珍らしい事故。

23 誘導馬に

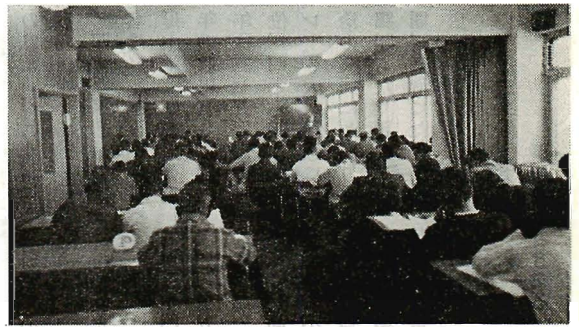
女流選手

秋の第二回旭川競馬に乗馬クラブの淑女がさつそうとして登場、三日間ばかり走路に重軌馬を誘導した。これも乗馬スポーツの奨励ともなり、場内のふんい気を和やかにして楽しい。

24 防疫会議の

開催

伝食、インフルエンザ、流脳など最近馬の集団施設の防疫については特に重要性が増しているのので本会では三月十三日道畜産課山口主任技師、成瀬、鈴木両係長、河村、長井両技師、開催地元の家畜保健衛生所予防課長の指導の下



に、各市及本会事務担当者が出席し防疫会議を開催した。なお当日午前中及び翌十四日は道の土門係長、荒谷主事の出席を得て開催に關する事務打合を行なった。

昭和三十七年度

馬主会

代議員名簿

○岩見沢支部長

代議員 土本光威

代議員 橋本豊

代議員 鷹松真一

○旭川支部長

代議員 南坂俊雄

代議員 木村与惣治

代議員 小瀬太一

代議員 岩城清次郎

代議員 鬼頭兼一

代議員 鷗沼武昭

代議員 氏家昭

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

昭和三十七年度

騎手会

代議員名簿

○岩見沢支部長

代議員 宇高輝次

代議員 尾ヶ瀬富男

代議員 野々宮重樹

代議員 岩瀬喜代美

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

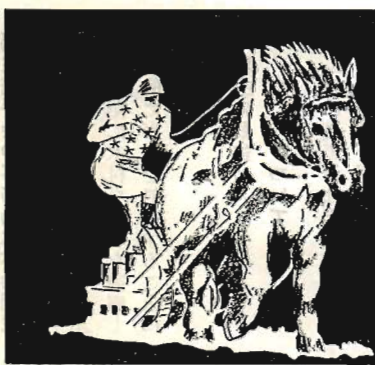
代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃

代議員 〃



○帯広支部長 中西 関松  
代議員 長野 清勝  
〃 山田 勇作  
〃 松原 仁三郎  
○北見支部長 吉村 信義  
代議員 坂本 和昭  
〃 片平 俊悦  
馬主騎手会書記 木村 卓司

# マスコミにもてはやされた

## ばんえい競馬

☆NHK「スタジオ

102」

☆人気番組「11PM」  
に登場

昨年の四月二十四日早朝の旭川競馬場で調教するばん馬が、NHKの朝番組「スタジオ102」にのって全国にカラー放送された。市の浅川さんのスタートで八頭のシーズンオフの調教風景、フーフー白い息をはいて走る馬、アナウンサーが「重い臆を引っぱって競走するのは惨酷にみえるがどうですか」の間にH騎手が「競走でかかる時間は二分か三分、第三障害が一番こたえるが、山道峻しい冬山造材や、一日中何十回も運搬する客土の仕事に較べればラクなもの、普通の競馬にくらべてもズツとラクな筈ですよ」と答え、「そうオですかア」とホッとしましたようなアナウンサーの声は印象的。

☆雑誌で紹介された

ばんえい競走

六月の週刊現代、八月のフアンフアーレにフォトグラフ四頁を使って熱戦のばんえい競走を目玉記事で紹介。

九月二十三日北見競馬の録画を中心に、夜の人気番組STVテレビ全国ネット「11PM」に登場、録画はこれより先九月二十日北見競馬第七レースにエレブン杯をかけて行なわれた競走を中心に下見所、厩舎、場内のばんえい競走風景を撮影、エレブン杯は北見市の坂井係長が賞状を代読し、同番組のカバーガールから水上騎手に親しく手渡された。

本番放送は札幌のSTVスタジオから「ゼツリン馬はゆく」という題名で放送、本会の内田事務局長と中村清信騎手がゲストとして出たが、この題名はなんだろうといぶかりつつ、本読みに出たところ、なかなか面白い部分があり吃驚、しかしこの番組はそんなところに酒脱があり、知名の士がよく出ることで有名なだからと勇躍出演した。

当日は司会の作家藤本氏に眞理アンス、評論家の虫明氏（札幌オリンピック脚本担当）作家の佐藤



女史、落語の金馬師匠、木崎ドクター、板坂氏、北大河田助教、中央の馬主安原夫人、同じく郷原騎手と多彩の顔ぶれ、コマージュタイムのとき、いろいろ馬の話や、ばんえい競走など話がたくさん出たが、なかでも競馬の通といわれる虫明氏が「ばんえい競走はまだ見たことないが、なんでもレースの途中で、馬をとめて、ほかの来るのを待っているというじゃないですか」ときかれ驚いた。ばんえい競走はまだまだPRの必要があるようだ。

☆NHKラジオ

「ふるさとのころ」に

朝の九時十五分から四十五分までの三十分番組、NHK全国ネット「ふるさとのころ」に岩見沢ばんえい競走を中心に編集された随筆風のシナリオ、八月二十六日放送。

ばんえい競走のかけ声や地ひびき、北海道の風景を思わせる抒情的な音楽を背景にストオリーは展開する。

ばんえいについて廻っていると、ばんえい競走は「馬を好く人間は素直だ、騎手は百姓が多いから真面目だもんね」と言ってくれる。

農民詩人牧の「つちのく」に描かれた北海道の開拓と馬の苦闘とその死は、アナウンサーの名調子で、聞く者に感動を与える。

「ダンツケ馬」「飢えと貧しさに身売りする馬」「金を工面して馬を買う話」「馬鉄の話、馬の力馬の忍耐力」は、はては勝ち負けの判る競走ばん馬の話、軍馬の話、NHKの開幕当時の苦労話などが、北

北海道の風光描写の中に点綴されてなかなかの力作であった。

その一節

開拓精神に燃ゆるたくましい道産子、小粒で力強い道産子。前者は北海道人として後者は北海道馬である。

人間と動物という無縁のこのふたつの道産子、しかし言葉だけの共通のみではなかった。

「心ある者は何人にも従い心より接すれば何人も納得する」とは人間の世界だけではないのである。

未開の北海道を開拓した先祖はその動力として道産子が唯一の機械であった。先祖は、機械を愛した。我が妻よりも……。妻はそれでも妬くことはなかった。

それもそのはず、夫と同じこの機械を愛していた。北海道は、どろんどろん開拓された。道産子と道産子は一身同体であった。

いつしかゆとりを求め、楽しさを求め、苦しい日々への反動が表われた……。

これが明治二十四年岩見沢の鳩ヶ丘で初めて行なわれたお祭りばんばであり、人間と馬のねぎらいであった。

このお祭りばんばは当時の道産子の生がいでであり、夢を追うようにいつまでも続いた。しかしいつ

☆鹿追町のばん馬

競走がテレビに

NHKテレビ早朝番組「明るい



4. 昇格、昇級及び積載重量基準

資格	級	積載重量	基準	摘要
A	1	630K	22万円毎に10K加増	1. 昇格昇級基準額は平場 1, 2, 3, 着, 特別重賞 1~5 着までの取得賞金の合計額とする。 2. 本表における昇級は最高 2 階級までにとどめる。 3. 昇格昇級基準額に達し, なお残額がある場合は, その金額の残りは新級の取得賞金とする。昇格及び 2 階級昇級の場合には切替する。(体重による昇級も含む。) 4. 前年度農林大臣賞典勝馬は規定競走において 20K 加増する。 5. 昇格の場合, 取得賞金額が基準に達するも, 重賞, 特別競走の 1 着のないときは 1 期間昇格を延期する。 6. 初出走以降 10 競走以上出走するも取得賞金額のない馬は降格降級する。 7. 降格降級は現資格級より 3 級下位までとする。 8. 重賞及び特別競走又は規定競走以外に出走する馬の加増条件は更正番組表で発表する。 9. この基準によらず, 昇格を希望する馬は番組編成会議で決定する。但し, 昇格できるのは, 帯広競馬終了時までとする。 10. 本表に定める以外番組編成上必要な事項については番組編成会議で別に定める。
	2	600	19万円以上 1へ	
	3	570	17万円以上 2へ	
	4	540	16万円以上 3へ	
B	1	540	20円以上へ A 3へ	
	2	510	13万円以上 1へ	
	3	480	12万円以上 2へ	
	4	450	11万円以上 3へ	
C	1	480	18万円以上 B 3へ	
	2	450	12万円以上 1へ	
	3	420	11万円以上 2へ	
	4	390	9万円以上 3へ	
D	1	420	14万円以上 C 3へ	
	2	390	11万円以上 1へ	
	3	360	9万円以上 2へ	
	4	330	7万円以上 3へ	
	5	300	6万円以上 4へ	
4才		280	10万円毎に10K加増	
3才		260	※80万円未満 10万円毎に10K加増 ※80万円以上 20万円毎に10K加増	

(1) 3才馬の編成について

イ 3才馬は取得賞金額により組合けをし, 80万円未満は10万円につき10K, 80万円以上は20万円につき10K加増をする。

但し, 重賞, 特別競走の着外賞金も含む。

(2) 4才馬の加増条件及び編成

ア 4才馬競走は取得賞金額により組分編成し, 10万円につき10K加増する。

但し, 重賞, 特別競走の着外賞金も含むものとする

イ 4才馬の頭数が少なくなった場合は, D5級からの指定馬(下位馬)の混合編成とする。

但し, 番組編成上必要と認められた場合は, 格付区分4

のウにより一般馬に編入する。

ウ 当該レース全馬の積載重量が高重量となるとき又は馬場状態, 馬の能力等により積載重量を一率に減ずることがある。

(3) 4才馬とD5級指定馬混合編成時の条件

ア D5級からの指定馬は, 4才馬の頭数によりその開催期ごとに指定する。

イ 混合競走に指定され, 取得賞金が10万円をこえた馬については, 爾後指定しない。

ウ 指定馬の混合競走における取得賞金は, 昇格, 昇級基準額には加算しない。

エ 指定馬の混合競走時の馬体重は一般馬に準ずる。

オ 混合編成時の積載重量は別に定める。

浅川係長欧州視察

旭川市の浅川畜政係長(競馬担当)は昨年八月十三日から二十二日間欧州酪農先進七カ国を視察、本道第二の都会と大きな農業区域を持つ旭川市の畜産事務担当者が海外の畜産事情を眼のあたりに見聞してきたことは大きな収穫であった。このほど視察状況を一冊にまとめて報告されているが、これは浅川さんの旅行記でもある。われわれ競馬人からみるとやはり日本の競馬は畜産行政の中にあるんだなということをも身につまされて思うことである。

しか変っていった。それは生活のゆとりか……。唯のお祭りばんばでは満足できなくなった。  
 自分の愛馬を優勝させようとし、強い馬を持つことが誇りとなった。  
 こうしてお祭りばんばは公式はんえい競馬に発展していった。昭和二十四年旭川競馬場において初めて公営競馬として馬券を発売し、今日のばんえい競馬は始まった。  
 そして今でも生きている……先祖代々の道産子と道産子の断ちがたい親愛は。

# 昭和47年度北海道市営競馬番組編成要領

## 1. 出走馬の資格

- (1) 地方競馬全国協会の登録を受けた馬北海道の登録を有する馬は、地方競馬全国協会の登録を受けたものとみなす。)
- (2) 明13才以下の馬。(新馬については8才以下)
- (3) 馬体重 650 kg以上の馬。
- (4) 本年度能力調教検査に合格した馬。
- (5) 本年伝貧検査を受けた馬。
- (6) 本年度インフルエンザ予防注射接種を受けた馬。

## 2. 出走の制限および拒否

- (1) 尋常てい鉄を使用しない馬は出走できない。
- (2) こ疾の程度が重くまたは外観上著じるしくみにくい馬は出走を拒否する。
- (3) 出走の前日に治療をした馬は、翌日の出走を拒否する。
- (4) 薬物検査の結果、陽性となった馬は、期間を定めて出走を拒否する。
- (5) 出走取消しをした馬は、その回の残余期間出走を拒否する。
- (6) 競走上の悪癖馬および失明馬(片眼馬を含む)出走を拒否する。
- (7) 出走申込みをし交通事故等やむを得ない理由のほか入厩しない馬は、以後の申込みを拒否する。

## 3. 格付け基準について

体重制格付け区分

	A	B	C	D	3.4才
体重	K 901以上	K 900以下 K 811以上	K 810以下 K 781以上	K 730以下 K 650以上	K 650以上

- (1) 格付けは、本年度初出走競馬の馬体検査時に計量格付けする。

但し、4才馬で取得賞金80万円以下の馬は除く。

- (2) 前年度出走馬で、体重により降格する該当馬は下記のとおりとする。
  - ア 前年度最終格付けより1資格下位の3級からとする。但しDの場合は4級からとする。
  - イ 前年度の成績で昇格後昇級した馬は、前年度最終格付けより1資格下位2級からとする。但しDの場合は3級からとする。
  - ウ 体重による昇格、昇級も含むものとする。
- (3) 下記該当馬は前年度成獣により格付けする。
  - ア 各資格とも、1級まで昇級した馬は、前年度最終資格の下位からとする。
  - イ 前年度農林大臣賞典勝馬はAに格付けする。
- (4) 4才馬の格付けは、取得賞金により下記のとおり格付けする。
  - ア 3才時より80万円以上の取得賞金のある馬は、50K減量して一般馬に格付けし、Aには格付けしない。
  - イ 取得賞金80万円未満の馬は、4才馬のみで組分編成する。
  - ウ 3才時の通算取得賞金80万円に達した場合は一般馬に編入する。編入時の格付けは、4才出走全競走の平均体重より50K減量し、各資格の下位に編入格付けする。

### B 体重による昇格昇級について

- (1) 第2回目以降の馬体重は、前開催期の平均体重とする。
- (2) 第2回目以降の計量で2資格以上上位の体重に増量した馬は、現資格より1資格上位に格付けする。Bについては、資格基準の最高重量より100K以上増量の馬は、B1級に昇級する。
- (3) 第2回目以降の計量で、資格基準の最高重量より50K以上の体重に増量した馬は2階級昇級する。但し、体重による昇級は、各資格とも最上級までとする。



# 昭和46年度種雄馬ランキング

順位	種類	馬名	登録頭数	勝鞍	取得賞金	おとも	なな	出	走	馬	名	名
1	ベル	ルン	20	32	6,846,000 <sup>円</sup>	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
2	ベル	ルン	21	22	5,816,500	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
3	ベル	ルン	6	17	4,485,500	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
4	ベル	ルン	5	13	3,803,500	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
5	ベル	ルン	1	9	2,573,000	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
6	ベル	ルン	2	7	2,491,000	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
7	ベル	ルン	9	9	2,438,000	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
8	ベル	ルン	10	12	2,228,500	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
9	ベル	ルン	2	15	2,190,500	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
10	ベル	ルン	3	10	2,155,500	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
11	ベル	ルン	1	5	1,936,000	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
12	ベル	ルン	7	3	1,773,000	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
13	ベル	ルン	1	12	1,764,000	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
14	ベル	ルン	1	6	1,732,500	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
15	ベル	ルン	17	1	1,712,000	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
16	ベル	ルン	1	10	1,682,000	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
17	ベル	ルン	1	9	1,527,000	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
18	ベル	ルン	2	5	1,393,000	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
19	ベル	ルン	3	4	1,360,000	ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ
20	ベル	ルン	1	5		ハメ	ツル	ノ	チ	ダ	イ	ニホンザラ

# 昭和46年度3才種雄馬ランキング

順位	種類	馬名	血統	登録頭数	勝鞍	取得賞金	おとも	なな	出	走	馬	名
1	ベル	新馬	ベルウオソシエー	2	9	2,438,000 <sup>円</sup>	ツ	ガ	ル	ハ	ナ	ナ
2	ベル	タソ	ベルウオソシエー	4	11	1,593,500	ツ	ガ	ル	ハ	ナ	ナ
3	ベル	オオ	ベルウオソシエー	9	10	1,499,000	ツ	ガ	ル	ハ	ナ	ナ
4	ベル	オオ	ベルウオソシエー	3	8	1,475,500	ツ	ガ	ル	ハ	ナ	ナ
5	ベル	オオ	ベルウオソシエー	1	7	1,093,000	ツ	ガ	ル	ハ	ナ	ナ
6	ベル	オオ	ベルウオソシエー	1	2	1,018,000	ツ	ガ	ル	ハ	ナ	ナ
7	ベル	オオ	ベルウオソシエー	7	6	838,500	ツ	ガ	ル	ハ	ナ	ナ
8	ベル	オオ	ベルウオソシエー	3	4	770,000	ツ	ガ	ル	ハ	ナ	ナ
9	ベル	オオ	ベルウオソシエー	3	5	756,000	ツ	ガ	ル	ハ	ナ	ナ
10	ベル	オオ	ベルウオソシエー	4	3	713,500	ツ	ガ	ル	ハ	ナ	ナ

# 昭和四十六年度

## 種牡馬別登録頭数調

頭数、種類、種牡馬名	ール、ウルパン
21頭ベルベルゾオンシー	ブルナスホース、ロブスト、
20頭ベルゴジエール	キプロク、伯梯、陳偉
17頭ベルオデオ	重半勝栄、丹風、滝博
11頭ベルニジエリア	ベル系蜂玉
10頭ベルオナシス、重半曼榮	ブル系公連
9頭ベルロッシーニ、ブル鉄鯉、	アノアポリ
7頭ブルボテイロン、ブルジヤド	2頭ベル第八北光、第五ロカ、第
ウ	一初駒、峰原、新鳥、新明、第
ベルオメガ	三芳星、映昭、峯竜、第一カピ
6頭ベルダンブー、エタロン	ール、波読、アンエーエー、ロ
ブルモナコ、モダイ	ジ、ジュナリー、第二エタロン、
5頭ベル二世エタロン、ナオス、	第二観音、ブラジャートル、連
影威	山、連風
ブルジム、スポルテイク、ジ	ブルノア、ブーロウ、コケン、
ヤケン、マジョル、ロイヤル	コリラン、ピコ、バビロン、ピ
重半宮川	ナル、ベルセプター、メルキ
4頭ベル第一世ゴジエール	コール、モンテイ、サンプー
ブルイミタンオン、プリニノ	ル、リュミエール、コリガン
1、キナール、カジモト	重半玲珠、雄岳、第十二グウ
重半芳栄、優波	ラントン、宝栄、第二日の出、
重半第十三グウラントン	雄生、八珠、復宝、第二グロリ
ベル系宝修	ユー、栄
3頭ベルルル、ルメルロー、詠嘉、	重半宮典、宝山、明北、八
カリー、ノマート、英勝、パテ	条、王将、ミュー、ナオス雄
イロン、第四エタロン、ゾオル	アノ春陽
	ベル系修輝

## 種類別

### 種牡馬数

1頭馬名省略(一四四頭)

ベル	八七頭
ベル系	二三頭
重半	四八頭
重系	一頭
ブル	六三頭
ブル系	四頭
アノ	五頭
中半	一九頭

### 開催回数増の朗報

ばんえい競走の改善は年を逐うて実施してきたところであるが、なお幾多の改善計画をたてており、また岩見沢は先年競馬場を新設次々に追加施設の整備計画をすすめ、北見は既に建設に着手第三年目に入る。旭川帯広も同様計画を進めているのでそれらの経費捻出のため開催回数の増加を懇請してきたが、このたび二回の増加が認められ、ばんえい競走共同実施者である四市関係者一同、当局の配慮に感激、過般の本会総会で取りあえず感謝電報を発信することとし、感謝の意を表した。

## ばんえいの華

### 豪快！ 重軌A級の熱戦譜

☆岩見沢記念 一着賞九十万円 十頭立 勝、シヤリはハナにかわされ三位。

岩見沢第四回第五日目第九レース

☆帯広全公営会長賞典 一着賞三十万円 十頭立

1 着キンシヨ 山本俊 七三〇 帯広第二回第五日目第九レース

2 ハナタカラ 片平 七三〇 1 着キンタロー 尾瀬 六七〇

3 シヤリイチ 山田 七五〇 2 シヤリイチ 山田 七一〇

4 トキミノル 山本 七九〇 3 ハナタカラ 片平 七〇〇

5 トヨタカ 金山 七三〇 4 トヨタカ 金山 六八〇

6 スイスイ 大友 七二〇 5 タカラオー 木村与 六七〇

7 ベニアラシ 松原 七五〇 6 キンシヨ 山本俊 七一〇

8 メジロタイヨゴ 鶴沼 七二〇 7 ベニアラシ 松原 七一〇

9 タカラヤマ 島中 七二〇 8 スイスイ 大友 六七〇

10 バンツバメ 広富 七二〇 9 トキミノル 山本 七三〇

一団となってスタート、第一障

害シヤリ先頭でこえればキン、ト

キ、トヨ、メジロとつづき、第二

障害でキン進出、第三障害で後続

馬も追つき全馬一線に並んでの先

陣争い、先づシヤリがこえ、三馬

身おくれでキン、二馬身おくれで

ハナとつづく、トキは五馬身おく

れてこえトヨこれに次ぐ、最後の

追込みはこの五頭で接戦となり、

必死に逃げるシヤリをゴール前四

〇米で掴みキンシヨ先頭に出て優

位。

勝、シヤリはハナにかわされ三

位。

☆帯広全公営会長賞典 一着賞三十万円 十頭立

1 着キンタロー 尾瀬 六七〇

2 シヤリイチ 山田 七一〇



☆全国協会々長賞典

一着賞三十万円 9頭立

北見第三回第六日目第九レース

- 1 着トキミノル 山本 七三〇
- 2 シヤリイチ 平田 七二〇
- 3 トヨタカ 金山 七〇〇
- 4 ベニアラシ 松原 七一〇
- 5 キンタロー 尾瀬 七〇〇
- 6 ハナタカラ 片平 七一〇
- 7 バンツバメ 広富 七一〇
- 8 スイスイ 大友 七〇〇
- 9 キンシヨ 山本俊 七二〇

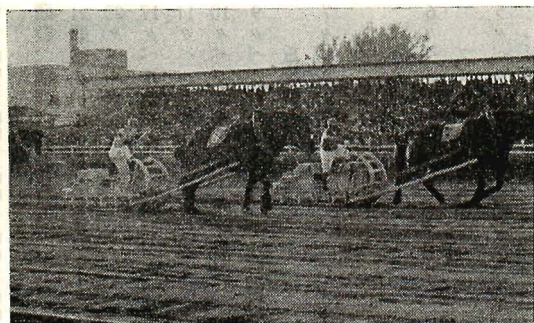
以下一団となって追込む、ゴール前二十五米でトキ先頭に出てそのまま。

☆農林大臣賞典

一着賞百万円 十頭立

旭川第二回第五日目第九レース

- 1 着シリイチ 平田
- 2 トキミノル 山本
- 3 トヨタカ 金山
- 4 キンシヨ 山本俊
- 5 スイスイ 大友
- 6 キンタロー 尾瀬
- 7 ベニアラシ 松原
- 8 バンツバメ 広富
- 9 タカラオー 木村与
- 10 ハナタカラ 片平



スタート後バン、ハナヤやおくれ、トキ先頭シヤリ二位につけて第三障害前に到達、シヤリ先づこえトキ二馬身で続く、三十米おいてトヨ、ベニ、十米おいてタロー

積載重量オール八五〇K、スタート後バン、ハナヤやおくれ、シヤリ、トキ先頭でキン、スイ、トヨがつづき、第三障害で全馬一線に揃う、今日は重い、タカラとハナよじれて胴引またぎ下そり補正、熱戦の末先づシヤリこえ、トヨこれにつづく、ことしで引退の老雄トキはこの一戦が大レース出場の最後、不得手の第三障害を三番目にこえ平地得意の速攻で追いかける。決勝線まであと二〇米でトヨを抜き、懸命に逃げるシヤリを追ってゴールに殺倒、勝ったか、残念、僅か〇・二秒の差で惜敗、シヤリは農林大臣賞と賞金百万円を獲得した。

昭和四十七年度

賞金・諸手当

○賞金

一四四、二六五、〇〇〇円

岩見沢市

四一、六五六、〇〇〇円

旭川市

四五、〇〇〇、〇〇〇円

帯広市

二七、九〇〇、〇〇〇円

北見市

二九、七〇〇、〇〇〇円

○出走奨励金

出走馬一頭につき次により支給する。

岩見沢市・旭川市

A級 二〇、〇〇〇円

B級 一七、〇〇〇円

C・3才級一五、〇〇〇円

D・4才級一二、〇〇〇円

帯広市・北見市

A級 一八、〇〇〇円

B級 一五、〇〇〇円

C・3才級一三、〇〇〇円

D・4才級一〇、〇〇〇円

○着外賞金

競走番組で定める以外の着外

給する。

○騎乗奨励金

出走した全馬の騎乗者に対し、一騎乗につき一、〇〇〇円(税込)を支給する。

○騎手賞金

次の区分により支給する。

普通競走

一着 二、〇〇〇円

二着 一、二〇〇円

三着 八〇〇円

特別・重賞競走

一着 三、〇〇〇円

二着 一、八〇〇円

三着 一、二〇〇円

○調教賞金

次の区分により支給する。

一着 三、〇〇〇円

二着 二、五〇〇円

三着 二、〇〇〇円

四着以下 一、五〇〇円

○厩舎管理奨励金

厩舎管理者に対して出走した、管理馬を次の区分により支給する。

一着 三、〇〇〇円

二着 二、五〇〇円

三着 二、〇〇〇円

四着以下 一、五〇〇円

○特別報償金

A級 五、五〇〇円

B級 五、〇〇〇円

C級 四、〇〇〇円

D・4才級 三、〇〇〇円

3才級 四、五〇〇円

○出走投票するも、その競走が不成立になった場合には、その競走の五着賞金に相当する金額を、出走投票をした馬に支給する。但し一〇、〇〇〇円を限度とする。

○同枠除外的場合は当該競走の三着賞金相当額を支給する。

○災害その他で中止の場合は当該競走の出走頭数であん分して支給する。

○厩務員賞金

競走に出走した馬の厩務員に対し、次の区分により支給する。ただし、失格および競走中

# 昭和四十七年度 行事予定

止の場合は支給しない。  
 一着 一、五〇〇円  
 二着 一、二〇〇円  
 三着 一、〇〇〇円  
 四着以下 八〇〇円

○出走報償金  
 本年度九期以上に出走し最終の岩見沢競馬に出走した競走馬一頭につき三、五〇〇円を支給する。

本年度の行事予定をお知らせいたします。

- ▽四月二十五日  
 第一回帯広競馬の出走申込及び、入厩申込の締切日です。本年最初競馬ですので、帯広市はもとより岩見沢市、旭川市、北見市の競馬担当係でも受け付けません。
- ▽五月一日  
 帯広競馬場の入厩開始です。
- ▽五月三・四日  
 第二回目の馬インフルエンザのワクチン注射です。
- ▽五月六・七日  
 第二回目のワクチン注射です。(第一回目旭川で注射をした馬を旭川と、帯広競馬場で行ないます)
- ▽五月九・十日  
 第二回目のワクチン注射です。
- ▽五月十二・十三日  
 第二回目のワクチン注射です。(第一回目帯広で注射をした馬を帯広競馬場で行ないます。)
- ▽五月十三・十四日  
 帯広競馬場で、馬体検査、馬体計量を行ないます。
- ▽五月十八・十九日  
 帯広競馬場で能力調教検査を行ないます。
- ▽五月二十七～六月四日  
 第一回帯広競馬の開催です。
- ▽五月二十九日  
 帯広競馬場で第一回北見競馬の出走申込を受け付けます。
- ▽六月十～十八日  
 第一回北見競馬の開催です。
- ▽六月十二日  
 北見競馬場と岩見沢市役所において第一回岩見沢競馬の出走申込を受け付けます。
- ▽六月二十日  
 旭川競馬場で登録検査と馬体検査を行ないます。
- ▽六月二十一日  
 岩見沢競馬場で能力調教検査を行ないます。
- ▽六月二十四～七月二日  
 第一回岩見沢競馬の開催です。
- ▽六月二十六日  
 岩見沢競馬場と旭川市役所において、第一日旭川競馬の出走申込を受け付けます。
- ▽六月二十八日  
 岩見沢競馬場で能力調教検査を行ないます。
- ▽七月三日  
 旭川競馬場で馬体検査を行ないます。
- ▽七月四日  
 旭川競馬場で能力調教検査を行ないます。
- ▽七月七～十六日  
 第一回旭川競馬の開催です。
- ▽七月九日  
 第二回旭川競馬の出走申込を受け付けます。
- ▽七月十七日  
 旭川競馬場で馬体検査を行ないます。
- ▽七月十八日  
 旭川競馬場で能力調教検査を行ないます。
- △七月二十一日～三十日  
 第二回旭川競馬の開催です。
- ▽七月二十三日  
 旭川競馬場で第二、三回帯広競馬の出走申込を受け付けます。
- ▽八月六～二十七日  
 第二、三回帯広競馬の開催です。
- ▽八月二十一日  
 帯広競馬場で第二回岩見沢競馬の出走申込を受け付けます。
- ▽九月二～十日  
 第二回岩見沢競馬の開催です。
- ▽九月四日  
 岩見沢競馬場で第二回北見競馬の出走申込を受け付けます。
- ▽九月十五～十月十日  
 第二、三、四回北見競馬の開催です。
- ▽十月二日  
 北見競馬場で第三回旭川競馬の出走申込を受け付けます。
- ▽十月十三～二十二日  
 第三回旭川競馬の開催です。
- ▽十月十五日  
 旭川競馬場で第三回岩見沢競馬の出走申込を受け付けます。
- ▽十月二十八～十一月十三日  
 第三、四回岩見沢競馬の開催です。

## 昭和46年度リーディングジョッキー



中西騎手

1位	2着	3着
松 一 作	47	27
関 幸 勇	42	39
西 本 田	38	38
中 山 山	30	32
片 平 山	25	37
金 山 小	20	26



山本騎手



# 写真判定の

## 写真とは？

レンズの焦点面に二〇分の一ミリという毛髪も通らないような細いスキ間があいている写真機。

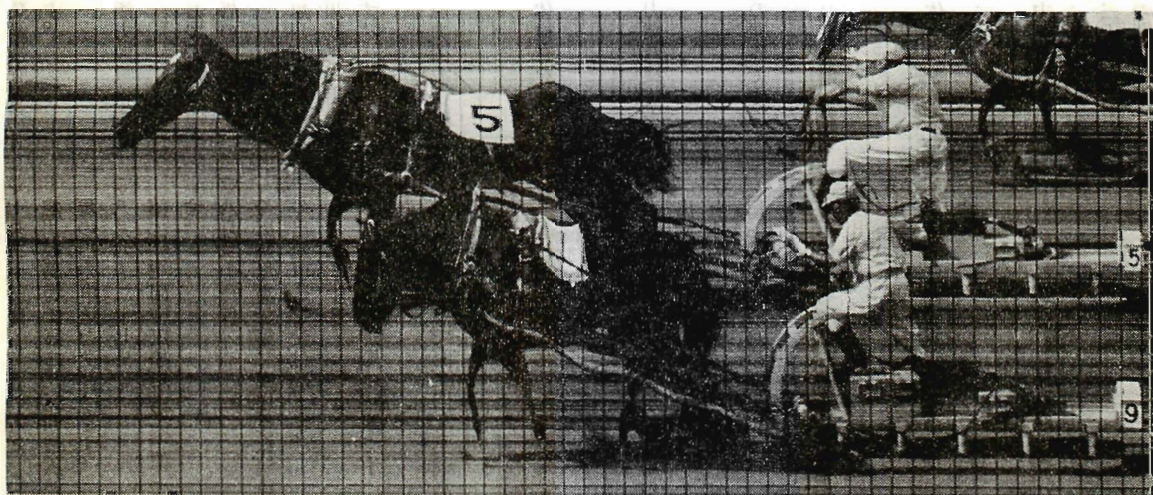
普通の写真機はシャッターがあつて瞬間にシャッターが閉鎖して外景をフィルムにとらえる。瞬間の姿がそのままに写る、動いているものは流れたらボヤけたりする。



普通写真は動いているものがボヤける

### 試

判定写真機はシャッターがないからそのままにしておけばなにも写らない、写そうとする馬の方向に合わせてフィルムを右から左へ動かしていくのである。そうすると走路の柵とかタワーとか固定しているものは流れてしまふ動いている馬と柵などがフィルムに写る、フィルムは一定の速度で動いているから速い馬は短く小さい馬は長くなりフィルムの速度に合っている馬は正しく写るとまれば流れてしまふ。



### 編集後記



原稿が揃って印刷に回したのが三月二十三日、会議やら何やらで多忙に追われているうち四月一日開催増の朗報が飛び込み感激も一しお、サアふんどしをしめてやるぞという気迫がひしひしと盛り上ってくる。

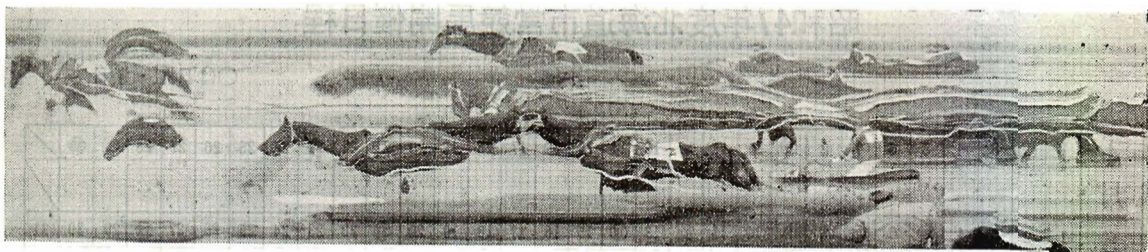
この会報に一つの目玉記事となる馬資源対策がまだ検討の最中で掲載されなかつたのは残念、その対策の一環として行なわれる新馬八才の年令制限、四才競走の新設は今年から実施される、今検討中の対策具体化が内容の核心になる。今年中にその方針が公表されるはこびとならう。

去る三月道から発刊された畜産関係統計資料とよると四六年二月一日現在の本道産業用馬数は六六、四七六頭とある。昨年一〇万頭の大台を割って八五、七三〇頭となったと思つたら、一年のうちに一万九千頭の減である、この落調の激しさはとどまることをしらない観がある。

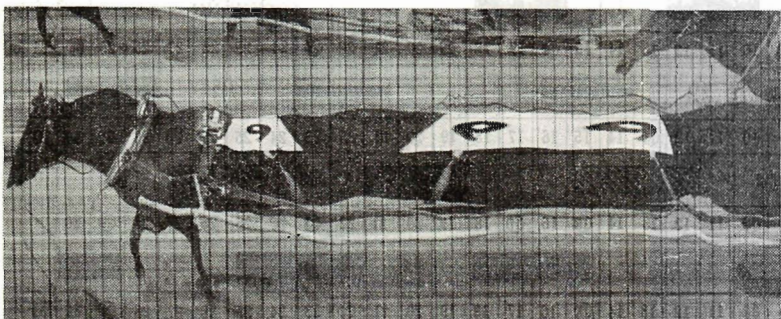
ながい間農政一本でこられた北見の栗村部長が退職されて常任監査委員となられた、栗村さんと北見競馬を語れば思い出も多き感慨も深い。そのほかこの一年に帯広の川岸さん旭川が多田さん岩見沢の中川高瀬さん北見の三上さんが他に転出された。

今回は紙面の都合で人事消息をのせられなかつたのは残念である。この会報もことしが二年目、拙ない編集で申しわけがあまりません。(四、二〇)

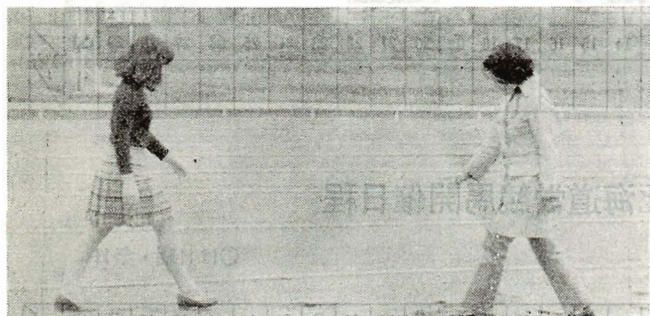




馬が鼻先をゴールインしてとまり、引っこめばフィルムは鼻先だけをとりえる。これを繰り返すと鼻先だけが点々となって写ることになる。



ゼッケンがゴールをすぎたときとまり、けっぱるために後退して、「グン」とまた引っぱったとすると、後退するときはゼッケンの後の方から前の方に写るから字は反対になり、また前に引っぱるから、今度は前の方から写るから正しい字になって写るのである。



さて二人のお嬢さんにゴール目がけて右と左から歩いてもらいました、この場合フィルムと同じ方向に歩いてきたお嬢さんそのまま写るが、反対からきたお嬢さんも同じ方向に向けて写るのです。これでこの写真機の特別な構造がわかります。

### 奇妙なばんえい競走 着順判定写真

(フォトチャート)

上の写真は普通の写真機でとったもの

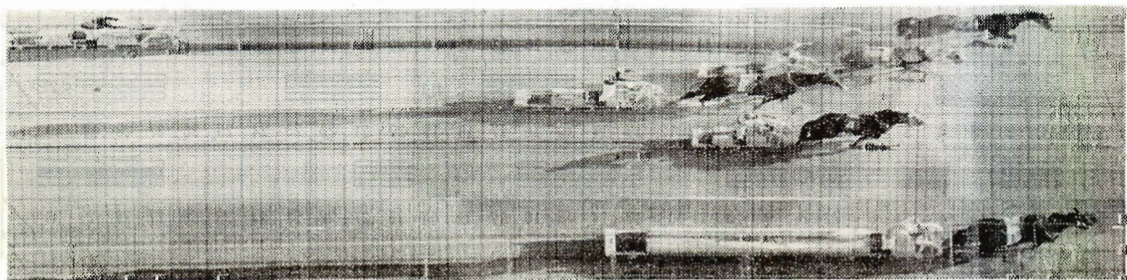


左はフォトチャート



右から 山本さん  
市の上さん  
森下さん

さてこの写真どれが一着かわかりますか？、ばんえい競走のゴール後端でとります、一番到着はそのこちらの馬の鼻先は一着ですが三着ですが、実は五着ですね。





## 昭和47年度北海道市営競馬開催日程

○は日曜・祭日

4月	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑩	17	18	19	20	21	22	⑳	24	25	26	27	28	㉑	⑳	
5月	1	2	③	4	⑤	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	㉑	22	23	24	25	26	27	㉒	29	30	31
6月	1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	⑪	12	13	14	15	16	17	⑬	19	20	21	22	23	24	㉓	26	27	28	29	30	
7月	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑩	17	18	19	20	21	22	㉔	24	25	26	27	28	29	⑳	31
8月	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	㉕	28	29	30	31
9月	1	2	③	4	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	⑮	16	⑰	18	19	20	21	22	㉖	㉗	25	26	27	28	㉘	30	
10月	①	2	3	4	5	6	7	⑧	9	⑩	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	㉙	23	24	25	26	27	28	㉚	30	31
11月	1	2	③	4	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑬	20	21	22	23	24	25	㉛	27	28	29	30	

## 昭和47年度北海道営競馬開催日程

○は日曜・祭日

4月	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑩	17	18	19	20	21	22	㉜	24	25	26	27	28	㉝	⑳	
5月	1	2	③	4	⑤	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	㉞	22	23	24	25	26	27	㉟	29	30	31
6月	1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	⑪	12	13	14	15	16	17	⑬	19	20	21	22	23	24	㉟	26	27	28	29	30	
7月	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑩	17	18	19	20	21	22	㉟	24	25	26	27	28	29	⑳	31
8月	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	㉟	28	29	30	31
9月	1	2	③	4	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	⑮	16	⑰	18	19	20	21	22	㉟	㉟	25	26	27	28	29	30	
10月	①	2	3	4	5	6	7	⑧	9	⑩	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	㉟	23	24	25	26	27	28	㉟	30	31
11月	1	2	③	4	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑬	20	21	22	㉟	24	25	㉟	27	28	29	30	

昭和47年4月

札幌市中央区北4条西4丁目労金ビル5階(TEL)代表221-9171